

2009 年

『平成 21 年度スチール・ドア契約適正化全国研修会』開催される

(2009 年 10 月)

協会では、(社)日本サッシ協会、(社)カーテンウォール・防火開口部協会と共催し、(財)建設業振興基金に協賛いただいている「スチール・ドア契約適正化全国研修会」を、今年度も 10 月 15 日から 10 月 23 日まで、全国 11 箇所で開催しました。

ドア事業の契約適正化活動の一環として、今年度は「積算マニュアルⅣ共通編、スチール製品編の解説」「『鋼製ドアの製品・品質基準』改訂版の解説」「製作・取付図作成の標準化(簡略化)の推進」「契約締結適正化の推進・文書化の更なる徹底」などをテーマに実施しました。

受講者として、(社)日本サッシ協会、(社)カーテンウォール・防火開口部協会、(社)日本シャッター・ドア協会会員のスチールドア製造企業他、非会員のスチール・ドア製造企業の積算担当、経営者、営業責任者および大手アルミサッシメーカー、大手シャッターメーカー積算担当者及び流通業者の営業担当者など、376 名が参加しました。



契約適正化研修会の風景(資料)

防火シャッター・ドア保守点検専門技術者を対象に特別講習会を開催

(2009年9月19日)

協会では点検法制化に向けて体制の整備・強化を進めていますが、さる9月19日、協会が認定する防火シャッター・ドア保守点検専門技術者を対象に、第一回目となる特別講習会を、東京・文京区のBXホール(文化シャッター(株)内)で開催しました。

講習会は、防火シャッター、防火ドアの製品単独ではなく、感知器や連動制御器と連携して正しくして作動するかといった一連の作動点検を想定とした内容で行われ、消防設備である感知器の構造や機能についてさらなる知識の向上を図ることを目的としたものです。

当日は関連各社の受講者約120名を集め、「関係法令」「電気に関する基礎知識」「感知器・連動機構及び関連する設備」「感知器・連動機構の構造・機能」「感知器・連動機構の点検調査内容」「感知器・連動機構の点検調査の実務」など6項目からなる講義が行われました。

今後、第二回以降の開催も予定されています。



当日の特別研修会風景



懇親会の様子



記者会見の様子

5月26日、東京・千代田区『グランドアーク半蔵門』において、当協会の平成21年度通常総会及び定例理事会が開催されました。また、同日、日刊紙、専門紙誌の記者を招いて記者会見が行われ、夕刻からは各界からの来賓と会員が集う恒例の懇親会が開催されました。

「第45回定時総会」では、平成20年度事業として、認定事業、講習事業など定常的事業、また、シャッター・ドア等の点検法制化、公益社団法人移行など特別事業の活動実績や決算が報告され、平成21年度事業計画についても原案どおり承認されました。また、平成21年度の「優秀施工者国土交通大臣顕彰受賞者」3名および「協会委員功労表彰」3名に対して表彰が行われました。

定例記者会見では、岩部会長、東田副会長、中屋副会長、沖村専務理事、後藤理事が出席し、会長より市場環境の厳しい現状を述べた後、沖村専務より21年度事業計画について説明しました。

夕刻開催された懇親会には約250名が出席し、岩部会長の挨拶の後、来賓として出席いただいた中川秀直・衆議院議員、太田昭宏・公明党代表、菅義偉・衆議院議員、田中和徳・衆議院議員、平将明・衆議院議員、和泉洋人・国土交通省住宅局長よりそれぞれ挨拶がありました。和やかな雰囲気の中で行われた懇親会も、約一時間半後お開きとなりました。

「防火シャッター・ドア保守点検専門技術者」、H20年度大幅増大、6325名に！（2009年4月）

（2009年4月）

当協会が認定している「防火シャッター・ドア保守点検専門技術者」が、ここ数年、増加の一途を辿っている。認定は、当協会が主催する「保守点検専門技術者講習」を受講することで行われるが、平成20年度は、全国12都市26会場で開催され、延べ2,071名が受講した。ここ数年の中でも最大の人数となった。

この結果、「防火シャッター・ドア保守点検専門技術者」の認定数は、平成20年度の新規認定1,985名と更新認定328名を加え、6,325名となった。今年度も、5月から講習会が開催される予定となっている。



2009年新春賀詞交歓会が開催される

(2009年1月22日)

1月22日、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門において、当協会の新春賀詞交歓会が開催されました。

雨天にもかかわらず、多くのご来賓や記者の方々にもお越しいただき、総勢260余名のにぎやかな交歓会となりました。



賀詞交歓会の様子



岩部会長

冒頭、岩部会長からは、「困難な状況のなか新年を迎えたが、大きな変革の年にはチャンスがある。ぜひ、会員の皆さんの知恵とパワーをいただき、マイナス要因を除去したい。一年経って、この不景気の中で良い結果が出てよかったといえる年にしたい」とのあいさつがあり、続いて、太田昭宏公明党代表、田中和徳衆議院議員、平将明衆議院議員、そして小川富由国土交通省大臣官房審議官よりそれぞれご祝辞をいただきました。

小川審議官のご挨拶では、「社会資本整備審議会の作業部会には当協会からも委員に参画してもらい、新しい点検の在り方について、議論を進めている。これを踏まえ、来年には新しい資格者制度といった形でスタートさせたいと考えている。」とシャッター・ドアの点検法制化について述べられました。



小川審議官